

# 牛久沼水辺の自然と文化

広報うしく市民特派員 齋藤 重

牛久沼は周囲25・5km、5市(牛久市・龍ヶ崎市・取手市・つくばみらい市・つくば市)にまたがり、県南で最も自然と文化に満ち溢れた湖沼であると自慢できます。うち5点を順次みていきます。

1つ目は、6号国道を佐貫方面へ向かい、八間堰という信号を右に水門を目印に入りながら牛久沼水辺公園に着きます。一気に沼全体と筑波山が遠望できる憩いの場所です。ここから堤防が西に向かつて延びています。すなわち二千間堤(取手市)です。江戸時代、



さるまい自然公園

寛永11年(1634年)堤防が築かれました。水害から守ると共に佐貫から細見、足高への交通の要衝でもありました。堤は4kmあり、右に沼、左に藪と田、砂利道を歩くと太公望の頑張っている姿を見ることが出来ます。

2つ目は、細見橋から西へ向かい足高(つくばみらい市)という集落に入ると「さるまい自然公園」があります。ここには、ろうそくのしん用のい草が栽培されています。江戸時代から灯心の草栽培が行われ、この地域限定の産業用品の歴史があったとのこと。ほかにミズバショウ、コウホネ、シヨウブ、オモダカ、リヨウキンカなどの湿原になっており、水生植物園として一見の価値がありそうです。(上写真)

3つ目は、つくば市駒込下、沼面(龍ヶ崎市)には、素晴らしいハスの自然群生地があります(右下写真)。7月にハスは満開になります。なお、牛久沼には漁業協同組合があり、組合員は83人です。組合幹部の大野清さんのお話によれば、



ハスの自然群生地

「組合員やそのほかの方々の努力により、沼の浄化運動が進み、沼中央で水深75cmまで透明度が良くなり、一層ハスやそのほかの水生植物が増してくるのではないかと期待しています。その一環として魚の放流や水辺のパトロールをし、牛久沼自然保護を続けていきたい」と話していました。

4つ目は、つくば市小茎と上岩崎との間、茎崎橋近くに昔懐かしい渡し場跡があります。ここは昭和初期まで船での往来でした。小茎の渡し場は天神下の渡し場と称し、対岸の下岩崎まで船頭が船を操っていました。その利用は茎崎第一小学校、茎崎第二小学校相互



根古屋不動尊

の運動会、板橋不動院の縁日参詣、桜見物と思い出多い渡し場でした。当時、沼はウナギの宝庫であり、ジュンサイ(スイレン科多年生水草)も大量に採れるところでした。最後に牛久市城中に根古屋という地名があり、そこには根古屋不動尊があります(左写真)。「フドウサマ」と称し、お産の神様と言われ、8月27日(今年は今月曜日)、縁日が催されます。また今も毎月27日、28日に月参りする人を見ることが出来ます。

牛久沼水辺には自然遺産、文化遺産が数多くあり、人々の遺産継承の努力により一層地域のオアシスとして重要さが増してきています。